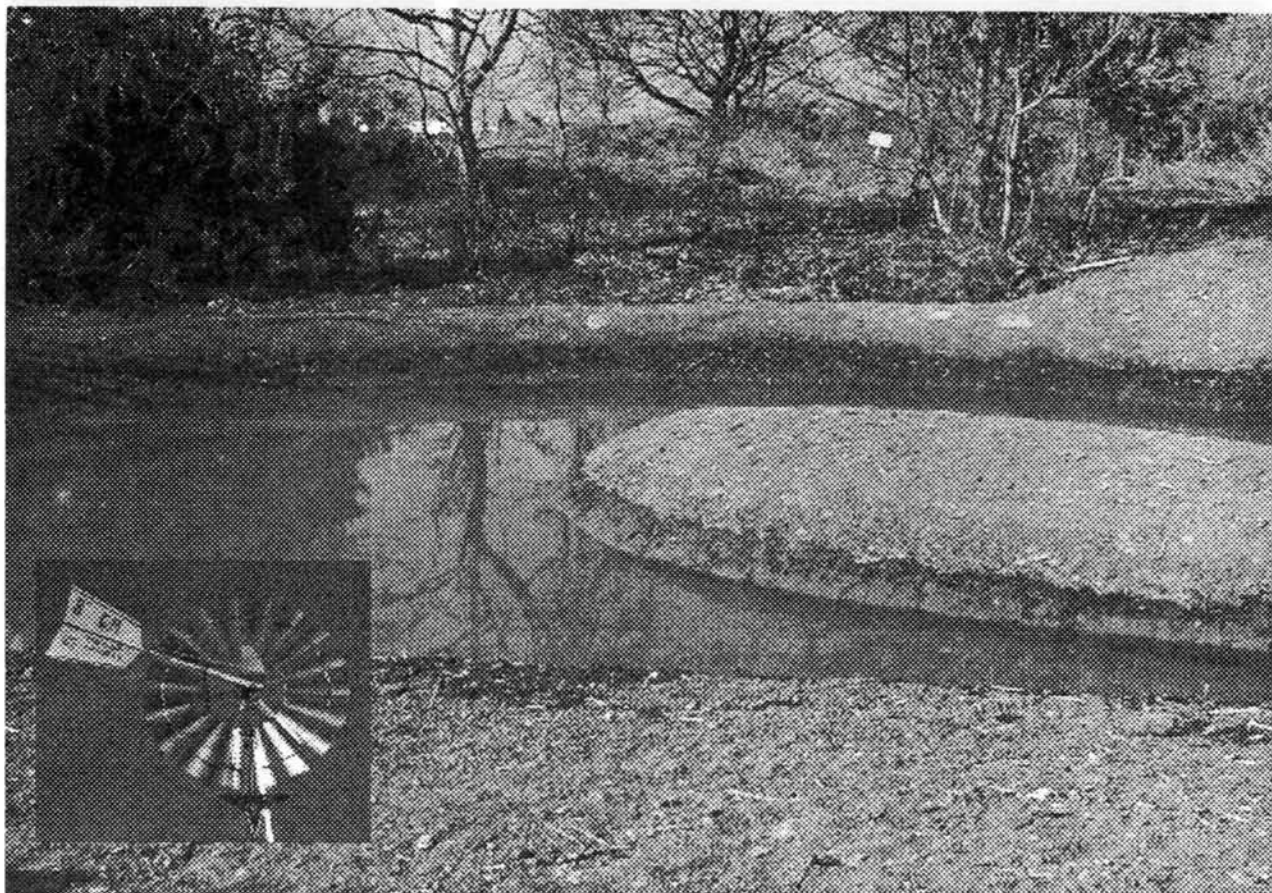




あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2001.5月号



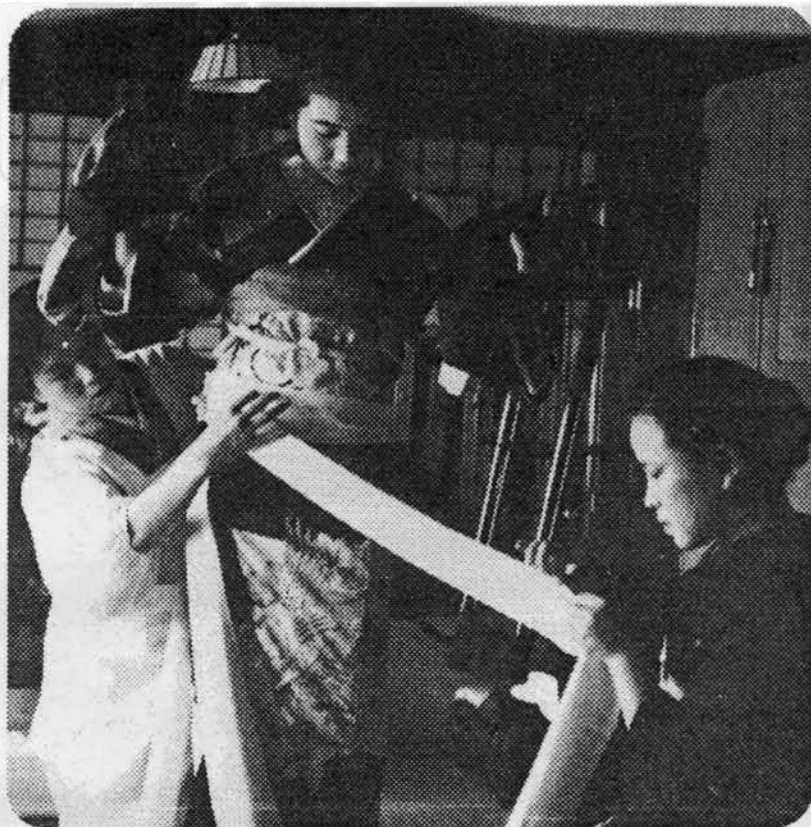
水生生物を待つ新しい池（四角の中はシンボル”風車イエローテイル”）

相模川に ”馬入水辺の楽校” オープン

馬入の相模川といえば、お花畑が有名ですが、その上流側に新しい遊び場所ができました。その名も「馬入水辺の楽校（がっこう）」で、4月15日に300名ほどが集まって開所式が開かれました。遊び場所といっても、サッカーや野球をするというわけではありません。コスモスやポピーを楽しもうというのでもありません。川の自然にふれ、生きものを相手に遊んだり学んだりする場所として用意されたのが水辺の楽校なのです。この場所は、少し前まで、駐車場やヨット置き場として使われていて、一般の人が立ち入りにくい場所でした。大型ゴミもたくさん捨てられていました。そこで、国土交通省・平塚市・相模川で活動している市民団体が話し合いを重ねて、整備をしていくことになったのです。現在までに、水生生物のための池、池の水を汲み上げるための風車、車椅子で通れる通路などが作られました。これからは、「水辺の楽校運営協議会」が中心となって、使い方を考えていく計画です。

博物館でも、「水辺の楽校生きもの調べの会」を定期的に催し、その場所の動植物について調べていきます。ぜひ、皆さんも一度現地に足を運び、もしよければ、生きもの調べの会の仲間になってください（参加希望者は往復ハガキで申し込んでください。折り返し案内を送ります。）

写真でみる20世紀の平塚（5）



連日たくさんの方々にご観覧いただいた、特別展「思いでの風景 思いでの人びとー山本登写真展ー」も、間もなく幕を閉じようとしています。昭和20～30年代に撮られた平塚市域の写真展がこれほどまでに共感を呼んだのは、身近で懐かしく、しかも稀少な写真であることに加え、市内の様々な場所で撮影されていること、また近景と遠景をうまく配し、一幅の絵のような構図で仕上げた山本さんのカメラセンスによるところが大きいと思います。この半世紀の間に私たちの生活環境は大きく変わり、当時見慣れていた景色も、今向き合えば、隔世の感があるのではないのでしょうか。懐かしい思い出が次々によみがえり、自然を愛おしく感じたり、のんびりした気分浸ったり…、山本さんは20世紀から、すてきな贈り物を私たちに届けてくれました。

農村や海辺の佇まいを中心に、生涯写真を撮り続けた山本さんですから、今回展示したのは、全写真の千分の一にも至りません。県内各地で撮影されたため、もしかしたら各市町村ごとに写真展を開けるのではないかと思います。そこには、箕や唐箕、クルリ棒といった、今では現役を退き、博物館で展示されている農機具が実際に使用されていたりし、言葉では言い尽くせない道具の説明も、写真なら一目瞭然です。また、撮影地が市外か不詳であるために展示できなかった写真の中で、婚礼写真に魅力的なものがいくつかあります。最終回の今月に紹介する婚礼写真は、必ずしも平塚市域ではありませんが、たんなる記念写真にとどまらず、舞台裏を撮影したりした興味深い写真になっています。

なお、会期中「あなたの思いでの風景、そして人々」のコーナーには、11名の方から103枚の古写真が提供され、展示をさらに充実させることができました。また、資料の借用から始まり、たくさんのご教示、ご援助を山本さんのご家族からいただきました。心よりお礼申し上げます。特別展は5月6日（日）で終了しますが、一部は2階のポスト特別展コーナーに移して展示します。



<上左右>昭和20年代後半 撮影地不詳 <左下>昭和30年 茅ヶ崎 <右下>撮影年場所ともに不詳

徳延で貝拾い

-縄文時代の貝化石-

平塚市が現在工事している徳延ポンプ場の建設にあたって、掘削した残土の中に、数多くの貝化石が散在しているのを、市内南豊田に在住の大橋貴之氏が河内川のサイクリングロードを走っていて気づかれ、博物館へ連絡くださいました。博物館では、すぐに現地に出向いて、下水道建設課と徳延ポンプ場工事事務所に連絡し、現場を見せていただきました。

ちょうど10m程掘り終わり、ポンプ場の骨組を組み立てているところで、周囲に掘り出した砂が積み上げられており、多くの白い貝殻が散在していました。工事現場内なのに、まさに砂浜のごとく、同行した地質ボランティアの方と1時間ほど貝拾いに精を出しました。小さい貝殻は目に付きにくいので、砂や砂利も一緒に袋に入れて持ち帰りました。建設にあたっている工事事務所や下水道建設課でお聞きしたところ、この貝殻は地下5～10m程の地層から産出していることが分かりました。

博物館へ帰ってから、今度は、バケツ一杯持ち帰った貝殻の入った砂を、水の中でふるい分けしました。2mmの篩に残った小さな貝殻は、乾燥してからひとつつつ、手作業で選び出し、小箱に分けていきます。こうした作業を、相模川の生い立ちを語る会会員の柳田さんが何日もかけて行ってくれました。

そして、その次は貝殻に名前を付ける同定という作業をしました。その結果、貝殻は二枚貝42種類、巻貝23種類の合計65種類にのぼり他に、サンゴ・ウニの棘や殻も見つかりました。

二枚貝はマガキ・トマガイ・バカガイ・オニアサ

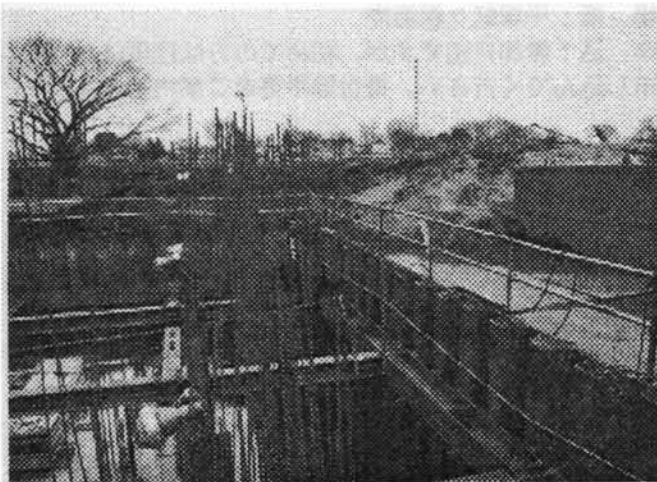
リ・ヒナガイ・オキアサリ・マツヤマワスレ・シマワスレなどが多く、サルボウ・ベンケイガイ・ナミマガシワなどもかなり含まれていました。巻貝は比較的少なく、キサゴ・サザエ・ツメタガイなどが目につきました。

こうした貝殻の種類からは、当時の水深や、底質などの生息環境を推定することができます。水深は、潮間帯（波打ち際）から水深10mほどであったと考えられます。底質は細砂底を主としていますが、礫質な所に棲むトマガイや岩に穿孔して棲むマツカゼ・イシゴロモ・スズガイなどもみられ、近くに岩礁や礫浜もあったものと推定されます。産出した深さが地下5～10mと一定ではないので、時代によって貝殻の種類が異なっている可能性もあります。

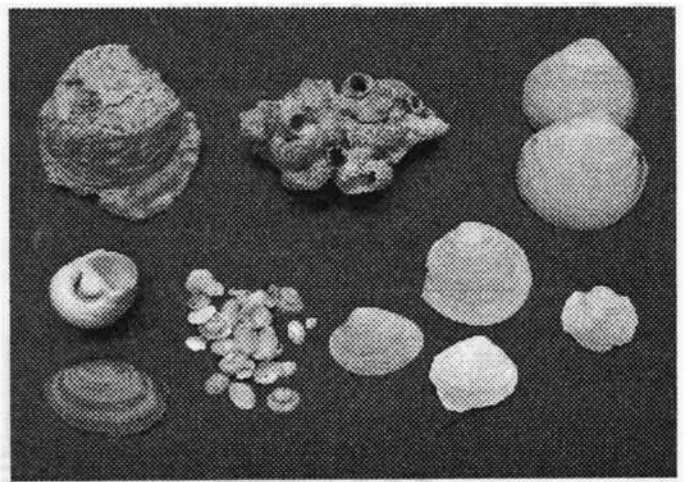
いずれにしてもこの貝殻は、縄文時代の初め～中頃にかけての温暖期に、海が平野域まで入っていた頃のもので、徳延付近が水深10m以下の細砂底からなる浅い海で、60種類を越える貝が生息していたことを物語っています。

このように博物館で収集された資料からは様々な情報を読みとることができますが、その情報を引き出すまでには多くの時間と博物館を支える人たちの協力が隠れているのです。調査収集にあたっては、下水道建設課、鴻池組・匠建設共同企業体の方々にはお世話になりました。この徳延の貝化石は今月の寄贈品コーナーで展示していますので是非ご覧下さい。

（寄贈品コーナー展示：5月2日～6月3日）



多量の貝化石を産出した徳延ポンプ場の工事現場



産出した多くの貝化石

博物館カレンダー

<平成13年 5月>

2	水	☆寄贈品コーナー「自然部門新資料展」(～6月3日)	展示室
		民俗探訪会分科会「調査」	中原区
6	日	○水辺の楽校自然観察会	相模川
10	木	石仏を調べる会「調査」	北金目
11	金	古文書講読会	講堂
12	土	民俗探訪会「川崎市市民ミュージアム見学」	中原区
		◎漂着物を拾う会	虹ヶ浜
13	日	地質調査会	科学室
16	水	民俗探訪会分科会「調査」	野外
		裏打ちの会	科学室
		プラネタリウム「幼稚園投影」(～7月6日)	プラネ室
17	木	展示解説ボランティアの会	特研室
18	金	古文書講読会	講堂
20	日	地質調査会	野外
		◎ろばたばなし	展示室
24	木	石仏を調べる会「カード整理」	特研室
25	金	古文書講読会	講堂
26	土	平塚の空襲と戦災を記録する会	特研室
		○自然観察会「コアジサシの観察」	相模川
		○みんなで調べよう「身近な林調べ」	科学室
		天体観察会「望遠鏡の使い方」	屋上
27	日	古代遺跡を探索会	科学室
		相模川の生き立ちを探る会「丹沢の珊瑚礁」	山北町
		天体観察会「望遠鏡の使い方」	屋上

☆：展示（無料）プラネタリウム（観覧料）
○：申込制 ◎：自由参加 無印：会員制

<平成13年 6月>

1	金	古文書講読会	講堂
2	土	◎星を見る会「月を見よう」	屋上
		天体観察会「月」	屋上
3	日	民俗探訪会	野外
		○水辺の楽校自然観察会	相模川
5	火	★全館燻蒸(6月14日まで休館)	博物館
9	土	◎漂着物を拾う会	虹ヶ浜
10	日	地質調査会	野外
15	金	☆寄贈品コーナー「平塚の戦災と空襲展」(～9月16日)	展示室
		古文書講読会	講堂
16	土	地質調査会	野外
		☆プラネタリウム「太陽の動き・星の動き」(～7月15日)	プラネ室
		天体観察会「星図と星表・二重星」	屋上
17	日	◎ろばたばなし	展示室
19	火	☆プラネタリウム「学校投影」(～3月)	プラネ室
20	水	民俗探訪会分科会「調査」	箱根町
		裏打ちの会	科学室
21	木	展示解説ボランティアの会	特研室
22	金	古文書講読会	講堂
23	土	平塚の空襲と戦災を記録する会	特研室
		○こども観察会「6月の自然」	野外
24	日	古代遺跡を探索会	広川
		相模川の生き立ちを探る会「根府川石の採石場」	根府川
28	木	石仏を調べる会「調査」	真田
29	金	古文書講読会	講堂

<展示・プラネタリウム>

☆特別展

「思いでの風景 思いでの人びとー山本登写真展」
市内代官町の故山本登氏が撮影した昭和20～30年代の平塚市の風景写真を中心に展示します。高度成長を迎える前の平塚市の原風景と人々の暮らしが写し出されています。
期 間：5月6日（日）まで
場 所：博物館特別展示室

☆寄贈品コーナー「自然部門新資料展」

生物・地質・天文の新作寄贈資料を紹介します。
期 間：5月2日（水）～6月3日（日）

☆プラネタリウム「小惑星200年史」

火星と木星の間に散らばる小惑星が初めて発見されたのは1801年でした。以来200年、太陽系への見方は大きく変わってきました。小惑星観測の歴史を中心に、地球をとりまく太陽系について解説します。
期 間：6月3日（日）まで
投影日：土・日曜日の11時と14時

休館のお知らせ

6月5日（火）～14日（木）は、全館燻蒸消毒を行うため、休館します。

<参加者募集>

○自然観察会「コアジサシの観察」

日 時：5月26日（土）13時～17時
場 所：相模川（厚木市岡田付近）
申 込：往復はがきに住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、5月15日（火）までに博物館へ
定 員：30名（多数の場合は抽選）

◎漂着物を拾う会

海岸に流れ着いた物から、来歴を推理したり、自然環境を考えたりします。

日 時：5月12日（土）9時30分～11時
場 所：平塚虹ヶ浜海岸
申 込：参加自由ですが、初めての方は往復はがきで申し込んでください。集合場所等をご案内します。

◎ろばたばなし

民家の囲炉裏端で民話を聞きませんか。
日 時：5月20日（日）①13時30分～ ②15時～
場 所：展示室民家

◎星を見る会「月を見よう」

望遠鏡で月のクレーターなどを眺めます。
日 時：6月2日（土）19時～20時30分
場 所：博物館科学教室・屋上

あなたと博物館 26巻 2号 通算292号 発行 平塚市博物館 2800

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949

E-Mail:muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/museum/>